

2030わかやま

2030わかやま構想

市民からの提言

平成25年3月

和歌山市

コンパクトシティに暮らす新和歌山人

2030年初夏・まちなかの風景

大木のけやきが連なる大通りから和歌山城にかけて都市型住宅が建ち並ぶ。みんな移動はバスや自転車、徒歩など公共機関をつかって移動している。まちなかには和歌山らしいお店やカフェ、レストランが建ち並び、軒先から賑わいを溢れさせている。

昨日までは駅前の広場、今日から和歌山城、来週は伏虎パーク、いつもどこかで「わかやまマルシェ」や「ファミリーイベント」がまちなかの笑顔を集めている。まちなかで出会う人はみんな「たっしやなかあ？」と気さくに声をかけてくれる。わかやま人は明るく健康的。

おじいちゃん、おばあちゃんは「将棋の達人」「梅酒名人」「おさかな目利き」「自転車マイスター」みんな何か肩書きを持っていて、知りたいことがあればいつでも親切に教えてくれる。

こども達はまち全体をまるで公園のように、まちなかで遊び、学び、元気いっぱい広場をかけまわっている。わかやまの小学校中学校は、「入学させたい公立学校・関西圏ランキング」で今年も1位。地元を愛し、日本の未来を考え、世界を視野に軸がしっかりしている独自の教育観を持っている。

子どもも親も、わかやまでは考え方までのびのびする。海があり、青空が広がり、里山の緑がまぶしい。週末はまちなかから少し足を伸ばして、ビーチに、農園に、山や露天風呂やスポーツ公園に、すぐに出かけることができる。ここには四季折々の楽しみがある。

まちなかに住んで楽しいまち。ずーっと住みたいまち。帰りたいまち。

2030年初夏・まちなかの風景（1） 目標とする将来像のイメージ

みんなが顔なじみ、市民みんなが協力してつくる「まつり」のあるまち。

和歌山城は2030年もまちの「ココロ」の中心。

お城を望む広場では、平日も休日も市民や来訪者の憩いの場であり、コミュニティ活動の場である。

ここにはいつも「わかやま」ならではの催しがある。

市役所やオフィス、住居、にぎわい、学び、医療など

まちながで暮らすために必要な要素が集まり、まちなかのどこへ行くにもとても便利。

そして、いつも声を掛け合える顔なじみがいる本物の「まちなか」がそこにある。

日々の生活も、まつりの時も、もしもの時も、

まちなかに住んでいて本当に良かったと思える

2030わかやまの新しい「ココロ」の中心。

楽しいまちには
住みたくなる！
コンパクトシティー化へ

やはり城はシンボル！

城とまちが繋がる

市民のための芝生広場

逃げ込める防災拠点が
まちなかの安心を
支える

伏虎中学校跡地を
コミュニティの場へ

2030年初夏・まちなかの風景（2）目標とする将来像のイメージ

車に頼らなくても「まちなか」のどこでも行ける。クリーンで便利なまちなか移動網。

まちなかの移動の起点となる駅前。

クリーンで、小回りのきく省エネルギー交通システムがまちなかにきめ細かく巡らされている。

まちのイベントや様々な拠点のインフォメーションがとても分かりやすい。

初めて駅に降り立った人達は「こんなにまちに親しみの湧く快適な駅は見たことがない！」と驚いている。

和歌山から新しい「まちに繋がるまちなか交通網」が始まった。

便利な駅前は
やっぱり住みやすい！

JR和歌山駅と繋がったバス&モバイルセンター

車から駅前を取り戻し
いつも賑わい溢れるイベント広場

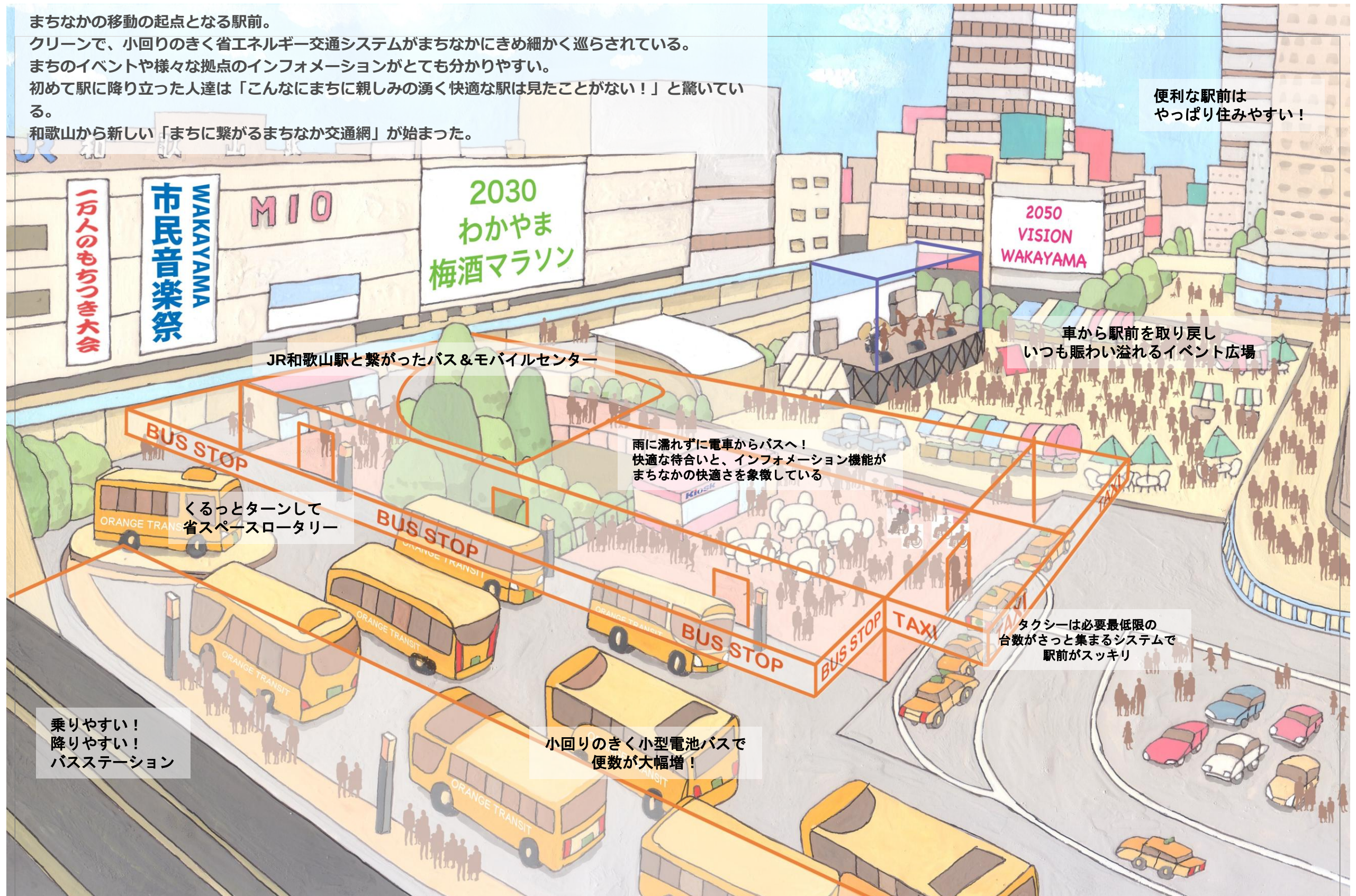
雨に濡れずに電車からバスへ！
快適な待合いと、インフォメーション機能が
まちなかの快適さを象徴している

くるとターンして
省スペースロータリー

乗りやすい！
降りやすい！
バスステーション

小回りのきく小型電池バスで
便数が大幅増！

タクシーは必要最低限の
台数がさっと集まるシステムで
駅前がスッキリ



2030年初夏・まちなかの風景（3） 目標とする将来像のイメージ

車に頼らなくても動けるまちなか。大通りはライフスタイルの幹線道路。

けやき大通りはわかやまで暮らす人達のライフスタイルのシンボル。
この通りが背骨のように「わかやま暮らし」の中心線となっている。
軽快な移動網のよりどころであり、ライフスタイルの象徴であり、
そのまわりに集まる賑わいやビジネスは他のどのまちにもない趣がある。
けやき大通りは、暮らしと、交通網と、賑わいとビジネスが織りなす
ライフスタイルの幹線道路。

けやき並木がまるで庭のような景色の
大通り沿いの中層集合住宅

うつくしまちなかのシンボル
けやき並木

便利な小型バスが行き来するまちなか

runners paradise
わかやま！

わかやま人の健康の秘訣
まちなかジョギングレーン

自転車で快適に移動できるレーンを付設

バス停や沿道駐車場沿いに集まる持続可能なコミュニティビジネス。

けやき大通りの周りには「わかやまスタイル」のビジネスと賑わいと、ひとの繋がりがあがる。
この道があるけば、わかやまのまちなかに暮らしたくなる
本物の豊かさを感じることができる、新わかやま人自慢のストリート。

春は新緑散策、夏はランタン
秋は紅葉狩り、冬はイルミネーション
街角ににぎわいを誘う並木のチカラ

古い建物はシェアハウスや
アーティストのためのギャラ
リーハウスになって
ユニークで活力のある
若者たちを集めている。

広告収入を原資に
バス停は快適な空間へ。
そのほか
地域情報のポータルサイト
イベントや地域活動情報
店舗情報が検索できる
待つのが楽しいバス停。

BUS STOP

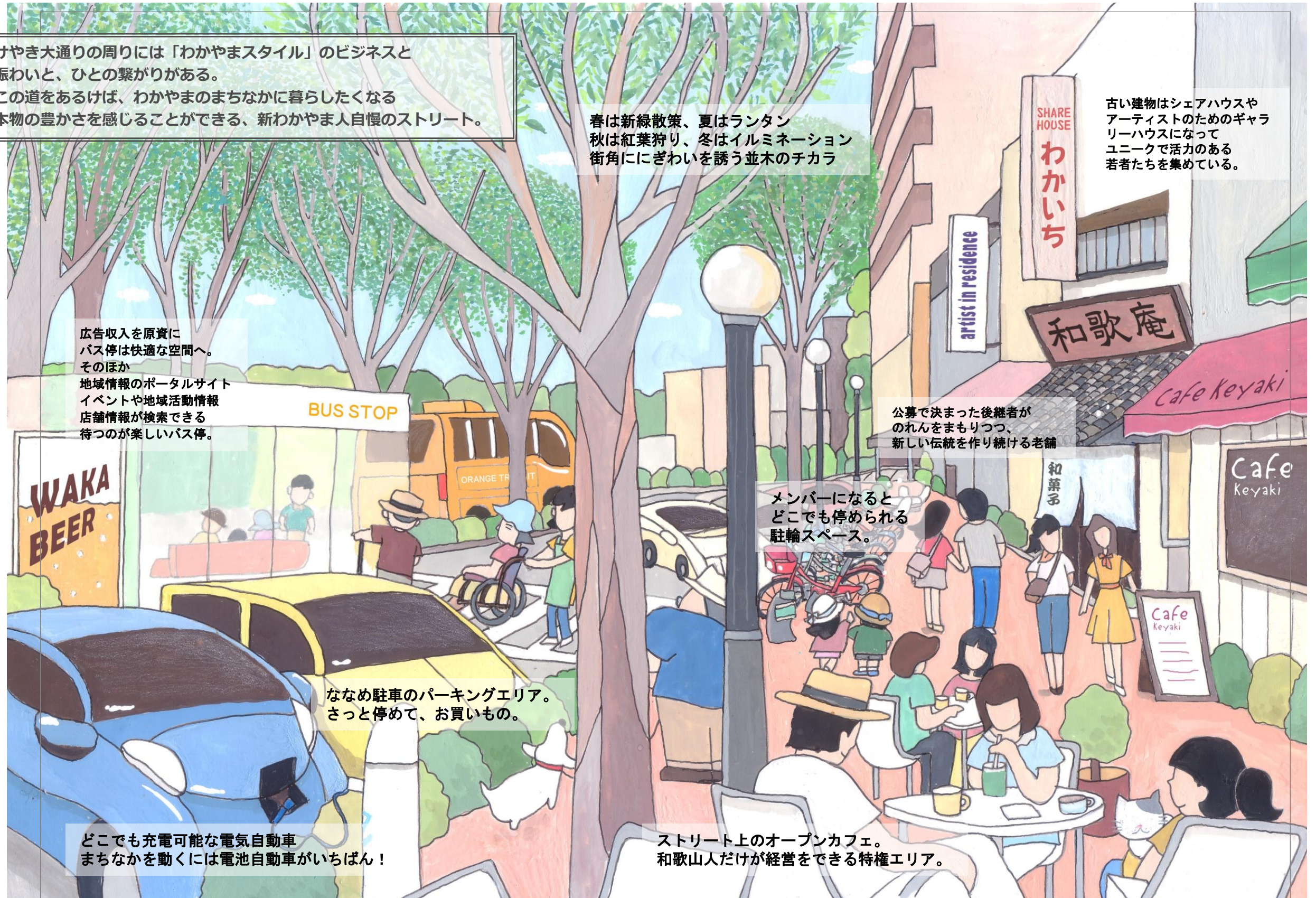
ななめ駐車のパーキングエリア。
さっと停めて、お買いもの。

どこでも充電可能な電気自動車
まちなかを動くには電池自動車がいちばん！

公募で決まった後継者が
のれんをまもりつつ、
新しい伝統を作り続ける老舗

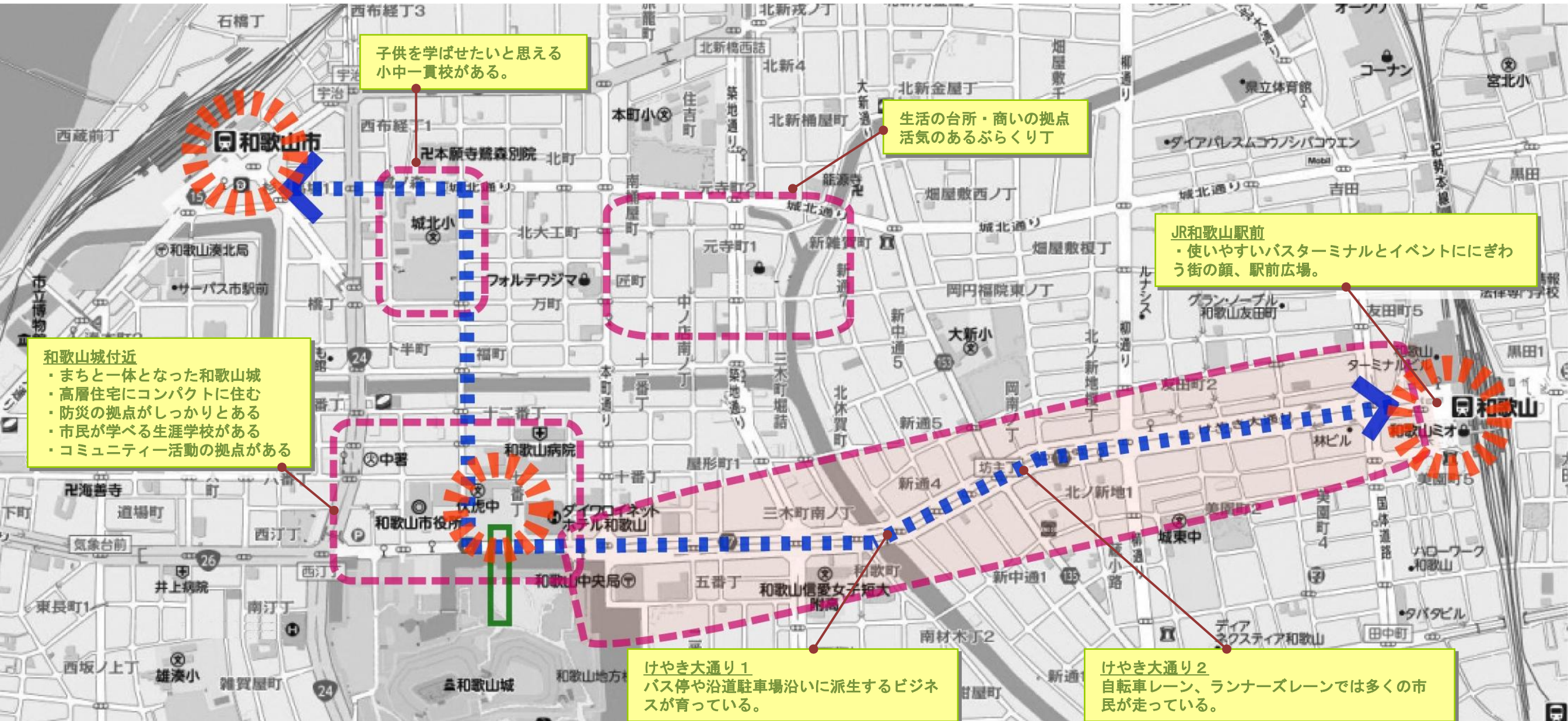
メンバーになると
どこでも停められる
駐輪スペース。

ストリート上のオープンカフェ。
和歌山人だけが経営をできる特権エリア。



2030年初夏・まちなかの風景 全体像

人口が大幅に増えて活気溢れるまちなか。2013年の和歌山人のチカラで新しいまちなかに蘇った。
これから私たちのチカラでもっと良いまちにしていこう！



コンパクトシティーに暮らす [新]和歌山人

2030わかやま構想

実現のために必要なチカラ＝[新]和歌山人のチカラ



繋ぐチカラ

(8ページ参照)

つながりを創るソフトで
まちのにぎわいアップを
仕掛ける



動くチカラ

(9ページ参照)

車に頼らない、
アクセス/移動が
便利なまち



商うチカラ

(10ページ参照)

他にはない
和歌山ならではのビジネスや
商材が育つまち



学ぶチカラ

(11ページ参照)

学びたい！学ばせたい！
上質な学びの場がある
求心力のあるまち

[キャッシュフローのあるまちづくり会社] (12ページ参照) が、和歌山の価値を押し上げる！

まちづくり
のちから

わかやまのちから



自然環境
(わかやまをとりまく状況)



市民
(ワークショップ)



有識者
(再生会議)

主体は「まちづくり会社」。 伏虎中学跡地を芝生広場と地域活動の拠点に。

事業主体:新設まちづくり会社

考え方:みんなが協力しあう日をつくる。そして365日イベントをつくる。

イベント案:

- 和歌山市民音楽祭
参考和歌山音楽祭(ジャズ部門・演歌部門・クラシック部門・ポップス部門・ブラス部門)
- まちなか芸術祭
壁画・彫刻・デザイン・モダンアート・パフォーマンス
- スポーツイベント
和歌山梅酒マラソン、自転車ロードレースなど
- 食に関するイベント
わかやまマルシェ
わかやまラーメン麺距離競走(時間内に何メートルの麺をたべたか?)
梅酒ソムリエ世界大会
わかやまのおかず(家庭の味)グルメ地区対抗合戦
- ファッションストリートフェスタ
地元デザイナー発表会・市民ストリートファッションショー・期間限定ショップ・お直し職人ブースなど
- ノーカーサンデー
まちなかに車が一切ない日曜日。月1回の定例。道路をフリーマーケットやミニ公園に。
歩道は商店のオープンエアショップに。駐車場をBBQガーデンやピクニックガーデンに。
- みんなで防災ウォーキング
月1回・まちなかの防災拠点をめぐるウォーキング大会。津波時の避難地点がゴール



伏虎パークの催される数々のイベント。そして和歌山城と繋がったまち



伏虎中学跡地をまちづくり会社の拠点に。
そしてここで数々の市民活動が行なわれる。

その他地域活動案:

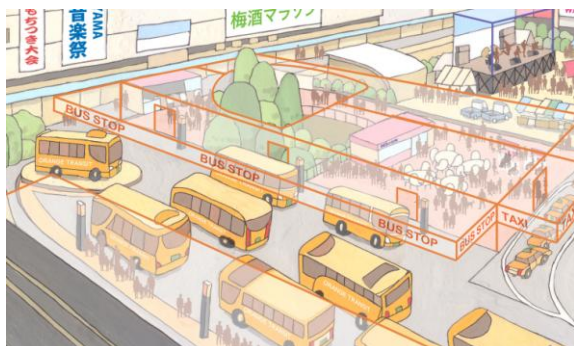
- 花と緑と水のまちなかミニメイヤー制度
細かくエリアを区切って街路樹や花壇の清掃、花壇管理の権利などを提供
- 認定シニア&キッズサークル
65歳以上と小学生の趣味サークル。認定制で名刺に刷れる肩書きができる
- わかやままちなかコンシェルジュ
人による案内+マップづくり+スマホなどICTによるナビゲーションなど
- 里山とまちなかを繋ぐ(里山産物直売所・農業体験など)
- わかやま人セミナー(市外や県外から転入した人に向けて「わかやま人」ライフスタイルの伝承)

動くチカラ

まちなかに広がるバス移動網。 けやき大通りはバス、自転車、人が動く道へ。

バス事業とタクシー事業の再編成

- ・南海和歌山市駅から市役所付近、けやき大通りを抜けてJR和歌山駅へ繋がるルートとバス駐車場の再整備。
- ・小型電池バスの導入によるバルルート多様化など駅前ロータリーの省スペース化。
- ・シェルター付バス停などの整備も検討する。ハンディキャップ対応。
- ・駅前ロータリー利用の効率化を目指したバス事業とタクシー事業の統合などを検討。
- ・バス停看板広告やネーミングライトの売却。
- ・タクシーのどぐろ巻きをやめさせる駅前ロータリーのあり方を再考（ロータリーからタクシーを外す）



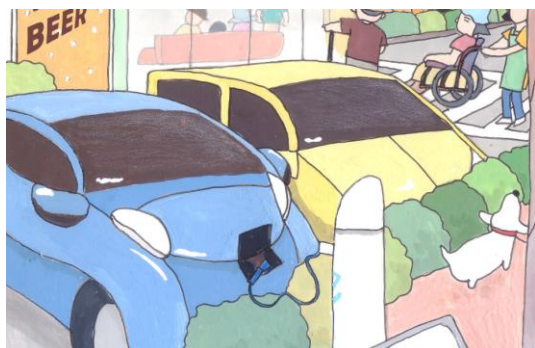
利用が効率化されたロータリーと快適な待ち合い。



まちなかに快適なバスネットワークが整備される。

まちなか道路上駐車スペースによる まちなかアクセスの向上

- 利便性の高い駐車場システム。ETC化やまちなかカードとの連携など。
- 電気自動車用充電ステーション



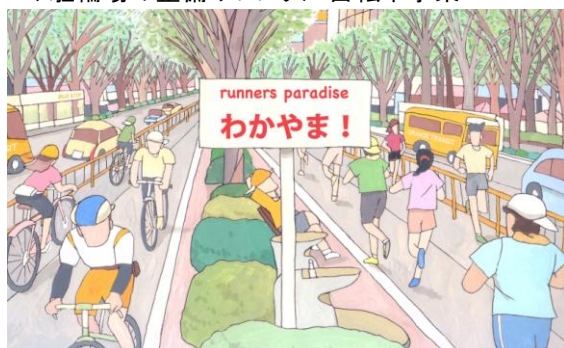
電気自動車用充電ステーション。



停めやすい道路上の駐車場。

自転車レーン、ランニングレーンの整備とレンタル自転車

- 自転車での移動が容易になるようなレーン
- 駐輪場の整備やレンタル自転車事業



自転車レーンやランニングレーンの整備。



レンタル自転車システムを導入。

商うチカラ

住民増とアクセス向上によるまちなか商業の復活。 そして老舗や和歌山の個店を大切に作る風土づくり。

まちなか商業の需要を増やす

- けやき並木沿いは中層住宅街に。住民が増えることが商業力アップに繋がる。
- 既存商業地を本当に役に立つ商業や機能を編集しなおして集約。適材適所の出店を促す仕組みづくり。
- 駅近くや大通りの交通アクセスのハブポイントにメディカル機能を集約。
- 古い建物はシェアハウスやアーティストのためのギャラリーハウスになってユニークで活力のある若者たちを集めている。その他、趣きのある不動産の物件情報を提供して、まちなかに住んでもらう。
- バス停のタッチパネルで地域情報・イベント・地域活動・店舗情報が検索できる。待つことが楽しいバス停。
- ななめ駐車場のパーキングエリア。さっと停めて、買物できる環境。

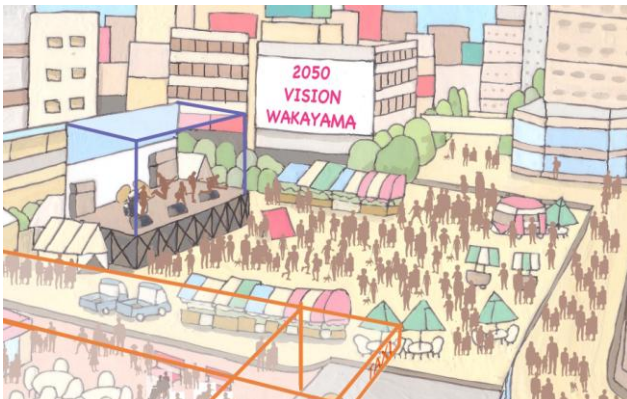


オンリーワン商店対策

- 和歌山で生産されたものを和歌山で使う。市外、県外に資本を流出させない仕組みをつくる。
- 公募で決まった後継者がのれんをまもりつつ、新しい伝統を作り続ける老舗づくり。
- 新規商業施設やチェーン店の出店を規制する制度なども検討
- ストリート上のオープンカフェ。和歌山人だけが経営をできる特権エリア。
- ゆったりとしたライフスタイルの象徴的存在。老若男女、ここにすればまちの仲間。

広場力アップ

- ファーマーズマーケットなどの農業出展者イベントを毎週開催。
- 駅前広場に人が集まると駅前の商業が活性化する。



駅前に広場が出来る人が集まり、人が集まると駅前の商業が活性化。ファーマーズマーケットなどの農業出展者のイベント。

学ぶチカラ

新和歌山一貫教育。 教育は和歌山で。他都市にはない和歌山型の教育方針。

こどもたちの学びを地域でサポートする仕組み

→統廃合となる小中学校を和歌山圏内、大阪圏南部での有数の充実した小中一貫校とするための施策を実施。ファミリーが住みたくなるまち（小中学校が充実したまち）にすることで、住宅地としての価値を高める。

→学童保育、子育て支援、学習支援など地域が一貫したサービスで行う仕組みをつくり、安全なまちなかで、子どもののぞむ学習環境をととのえる。

→世代間相互学習の機会をつくり、学校での学び以外にも、コミュニティの中で知の世界観を培う。

大人の「知」活動にあふれるまちなか

→まちなか大学（社会人大学）で「わかやま学」や「まちなかを楽しくする学問」など、地域愛、郷土愛に基づくカリキュラムや、各種専門家によるカルチャースクール、おけいこ、研究などが年代を超えて楽しめる「まなびの仕組み」を構築

→市役所、美術館、オフィス、商業施設、遊休地、里山、海を学びの場として常に公開し、さまざまなカリキュラムを実施。
まちなか住民だけでなく、来街者にも門戸を開き、わかやまの知活動の楽しさを知ってもらうことでわかやま居住の魅力を伝える。



子供を学ばせたいと思うような学校があること。



海や山での教育が出来ることも和歌山の財産。

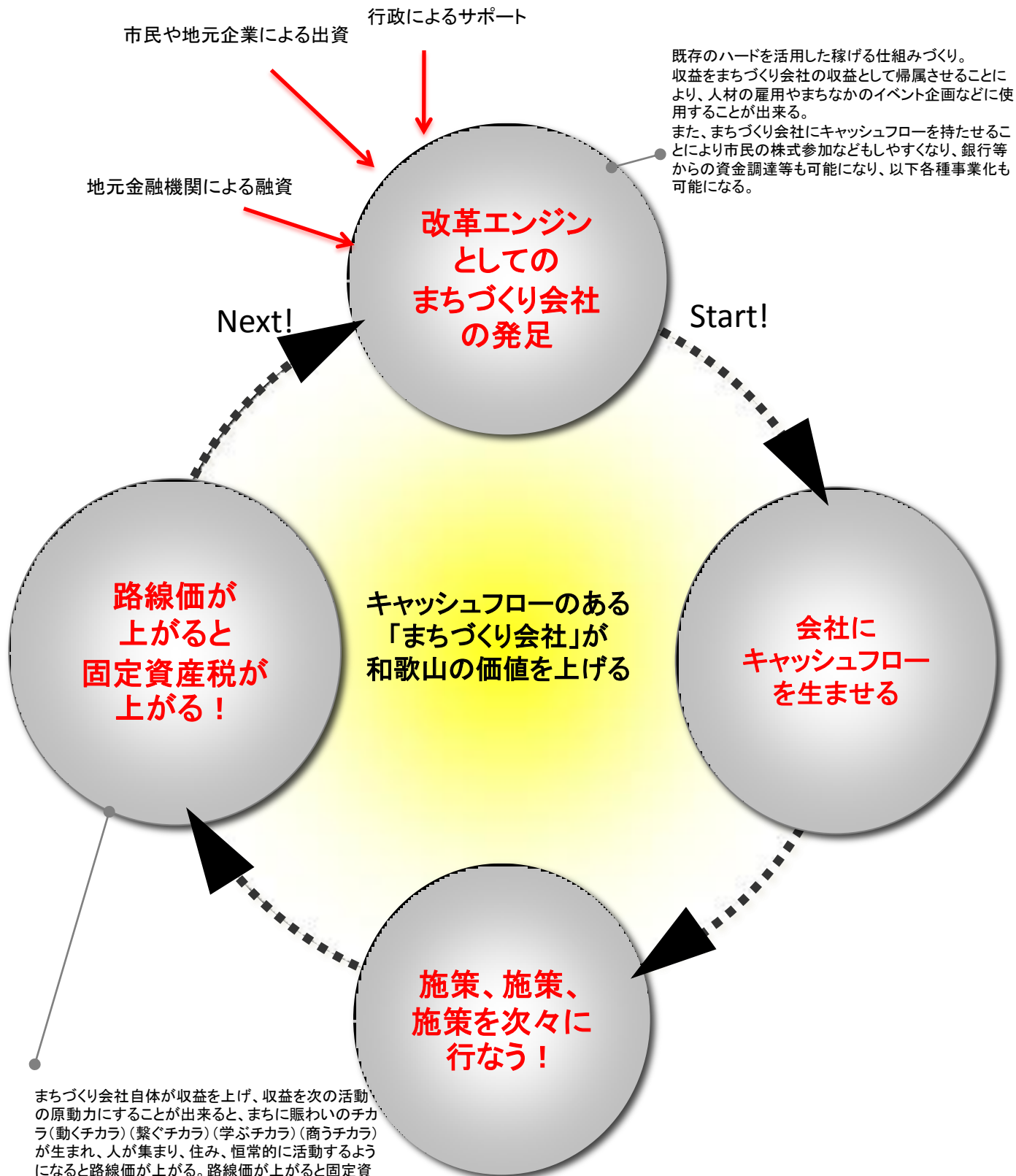


伏虎中学跡地は社会人大学の拠点に。



未来の和歌山人を育てることが大切。

そして市民のつくるまちづくり会社が 「まちのチカラ」になる



まちづくり会社自体が収益を上げ、収益を次の活動の原動力にすることが出来ると、まちに賑わいのチカラ(動くチカラ)(繋ぐチカラ)(学ぶチカラ)(商うチカラ)が生まれ、人が集まり、住み、恒常的に活動するようになると路線価が上がる。路線価が上がると固定資産税が上がる。固定資産税が上がると自治体としての力がつき行政サービスの質が向上する。そしてさらに住みやすいまちとなり、人と機能が集まるコンパクトシティとなる。

そしてまた、キャッシュフローのあるまちづくり会社の活動が活性化する。